

上海
本署

四月六日 午後
發

郵務外務大臣

矢田總領事

才四七六号

森岡ヨリ左一通

上海總領事宛貴電才一一七号ニ関シ昨五日附上

海電公信才二七二号ヲ以テ報告書榮送シタル処同才

三頁才二行各國居留民ヲ全部城内ニ撤退セシムト

ハ城外ニ撤退セシムルノ誤ニ付御訂正アリタリ尚同報告

中適當ノ個所ニテ今回ノ掠奪暴動ハ外國人ノミテ目標ト

シテ行ハレタルモノニテ其那人側ニ被害無シトノ旨ヲ御指

入アリタリ

南京事件真相、開スル南京駐在英國總領事
シヤイルス、本國政府ニ宛テタル報告（一九二七年

四月九日在南京英國軍艦 *Amcald* コリ發送）譯文

三月二十四日、五兩日之間國民軍襲撃掠奪中、本官

一作驍勇ニ以下報告スル、光榮ヲ有ス、

本官ハ負傷後、衰弱アリ、報告斯ク遷延スルニ至リ

タルヲ遺憾トス、

折北軍ヲ徹底的ニ惨敗シ、市街ヲ横切リ、江岸ニ

逃ヒ更ニ浦口ニ退却スル、餘儀十ニ至リタル時早速

本官、軍艦 Emerald / 艦長 England 卜打合セ南京在留
 1 山根中ヲ全部上海ニ送リ婦人ヲ引揚ヲ希望スル者ハ
 可成上海ニ避難セシムルコトニ手配ヲ了シ三月二十日発
 拙電ノ通り當時南京ニ残留セル婦人ハ城内ニ五名下南
 ニ一名エ、レテ城内ノ五名中三名ハ領戸館ニ一名ハ其附
 近ニ他ノ一名ハ米國金陵大學ニ止リ居リタル也ナリ
 案ヲ中官ノ最モ憂慮シタルハ直魯軍力退却ニ際
 シ無差別ニ掠奪ハストレテ被害ハ支那人ナルハキモ外
 國人及其施設也必ス或ル程迄被害ヲ蒙ルヘシ
 ナラスヘキコトニシテ南軍入城セハ素ヨリホイコソト其他

一 煽動ニヨリ無限ノ紛々擾ヲ醸スハキコトハ充分ニ豫
 期シ居リタルモ豈夫外國人ノ身体及其家宅カ直接
 ニ被テハ襲撃ヲ受ケントハ毫末モ豫想セサリレ所ニ
 係リ右ハ米國領事モ同意見ニレテ同時ニ本官ノ兼
 知セル限リ他ノ外國居民モ同様ナリレカ如シ
 右ノ事情ニヨリ三月二十二日 Emerald 艦長ハ約二十名ノ
 水兵ヲ領テ彼ニ配置スルコトヲ本官ニ約束レ之等水
 兵ハ同日中ニ三々五々分レテ領テ彼ニ來テ武備ハ在
 來領テ彼ニ據付、小銃ヲ用ヒレタルコトトシタルカ右ニテ
 本官ハ領テ由彼及附近ノ外國人家屋ニ對スル特異的

掠奪ヲ防禦スルニハ充分ナリト考ヘ同時ニ米國領ヲ蝕
 毛亦僅カニ水兵十一名ヲ配備セリ英國領ヲ蝕ニ集合ス
 中管ノ英國人及其他外人ハ二十三日夜ヲ特ニ附近ノ家ニ
 三暮スコトヲ希望セラル少部ノ連中ヲ除キ他ハ全部ニ
 三日中ニ蝕ヲ蝕ニ避難セタリ
 二十三日ハ終日北軍ノ退却ヲ以テ蝕ヲ蝕内前ノ道
 路ヲ埋メ恰モ蝕ヲ堆ミタル方如ク一時ハ進退共ニ益マリ
 ヲ蝕ヲ蝕ノ大内ニ押付ケラレタル程ハ状況ナリレカ蝕等
 ハ極メテ靜肅ヲ保チ内内ニ押入ルコトナク夜ニナリテ
 道路上孤行ノ外人ハ所持品ヲ掠メ且外國人ノ留守

MARUZEN II

45

宅ニ軒ヲ掠奪セル外他ニ何等ノ損害ヲ與ヘサリキ夜
十一時半頃本官カ外出視察セル時頗る鋭内前ノ道路
ハ極メテ静寂ニシテ危險期ハ既ニ経過セリト感セ
ラレタリ其後進ム所ニ若干ノ北軍カ容易ニ南軍
ニ武装解除セウカシタルストヲ信シタムモ本官自身ト
シテハ爾來北軍ノ片影ヲ見認メサリキ、

翌二十四日朝九時頃本官ハ事務所ニ赴キ Mr.

Roberts (書記) 及 Miss Blake (特志書記) ヲ呼出ス、

ノ使者ヲ出シ又陸戦隊指揮官タル Emerald 一将

校 Captain Heathcote 同艦得校 Lieutenant Oliver -

Bellairs & Captain Spear, Indian Army Intelligence

Officers 等モ本官ノ要求ニヨリ時局ニ関シ打合セリ

為スヘク同所ニ来リ妻モ勅令ノ按察官ニ用ゐラセリ

来リセリ

九時半頃官邸及前庭に南軍兵士ニヨリ充滿シテ、

中心に自報告ニ接シタルヲ以テ本官は同席將校三名ト

共ニ無武装ニテ事態ヲ視察スヘク官邸ニ向ヘタル

処途中ニ兵士中二名ノ挑戦ヲ受ケタルヲ以テ本官は

兵士等ニ向ヒ余ハ英國總領事ナリト告ゲタルニ兵士

ハ直ニ本官ニ中銃ヲ握セリ Captain Spear、兵士力

本官ヲ射撃セシメリ恐レ其銃ヲ掴ミタル処他一名
 兵士ハ本官ニ向ヒテ発砲シ左脚ヲ負傷セシメタリ兵士
 等ハ豫テ用意ノ信号ヲヤセルモノ如ク多ク兵士何
 カ口走リ以テ官邸ヨリ出テテ発砲シタルカ本官ハ左
 ハ兵士力其時芝生ヲ通過シテ、アリタル英人医師
 Smithヲ射撃セルヲ認メタリSmithハ仆倒シテ即死セリ
 Captain Spear及本官ハ事務所ニ駆込マントシタル処
 兵士等ハ背後ノ植込ニ忍ビ寄り引續キ本官等ヲ
 射撃シ爲メニSpearハ右腕及左脚ニ負傷シタリ
 本官等二人ハ妻 Mrs. Roberts及 Miss Blakeノ身ハ

上ヲ氣使ヒ事務所ニ引返シタルカ兵士等ノ追跡急ナ
 ルト本官等ハ武裝ナリヨリ早速三名ノ婦人ヲスト
 口ニ切ル一ムニ押込メ本官等ニ後ヨリ其室ニ入り内ニ
 リ固ク戸ヲ閉メ友那ホ一ハ外部ヨリ内ヲ鎖セリ本官
 ハ兵士ノ追跡急ナリニ爲副領ヲ用金庫ヲ閉メル余裕
 ナク開放シ置ナカリ兵士等ハ直ニ事務所ニ闖入シ本官
 等ノ所在ヲ捜搜シタルモ支那人ホ一ハ固ク知ラスト答
 ハタルヲ以テ強迫シテホ一ハカ脅迫シタルカ其内金庫
 ノ開ケルヲ見付テ現金五百五拾弗 *chepus* 數枚ヲ掠奪
 シ殘余ノ品物ハフロ一アニ取棄シテ去去シテ

彼等、其立ち上りたる後又他一組ナリ込ミテ掠奪シ勝手氣
 儘ニ破壊セリ更ニ他一組ハ英國水兵一名及在留青年
 Mc. Brownヲ連レ来リタルカ一後ニ至リ彼等兩名ハ品物ノ
 所在ヲ教ヘシムルヘク連行ヲ強イラレタルモノナルコトヲ
 知レリ其時 Mrs. Robertsハストロングームノ戸ノ隙目
 ヨリ之ヲ見テ軍艦ヨリ救援隊カ来レズト誤解シ由ヨリ
 水兵ト呼ビ掛ケタル爲忽チ感付カレ兵士等ハ銃ニテストロ
 ングームノ戸ヲ叩キ破ラント試ミタルモ目的ヲ達セサルニ業
 々然ヤレハ外ヨリ内ニ向テ実弾ヲ発射スヘクハ銃ニ装
 弾セルト同時ニ若シ吾々カ電室外ニ出ツレハ殺サスト叫ビ

タルニヨリ吾々ハ之ニ隨ヒ外ニ出テタリ
 同カ室ヲ出ソムヤ
 否ヤ兵士等ハ吾々ニ飛ビ付キ全部ノ貴重品、指輪、時計
 腕輪、切齒、眼鏡迄掠メタル後事務所内、他ノ個所ヲ
 掠奪シテ去レリ間ニナク他ノ幾多ノ集團入り込ミ掠奪品ノ
 少ナキニ腹ヲ立テ、飢ハ蓋々兇暴弑忍ノ言ヲ加ヘタリ
 彼等ハ幾回トナク吾々一同ノ身体検査ヲナシ更ニ銃光ニ
 ナ他ノ財宝若クハ武器特ニ短銃ヲ提供セヨト脅迫シテ
 領テ銃備付ケ、小銃、彈藥全部ヲ奪ヒ Mrs. Brown 及
 本官、長靴、婦人連中ノ外套迄取去リタリ
 吾々カ斯カル憂目ニ遭ヘン間ニ
 Walker — 英國人港務長

ハ支那兵一名ト格闘シツ、事務所ノロビーニ轉ヒ込ミ二人
共腰掛ノ上ニ倒レテ組打シ居リタルカ本官ハ右ハ兵士ガ
Kubekヲ射撃セシトシ Kubekカ兵士ニ組付テクルモノト
相像セリ其時別ノ兵士来リ Kubekノ頭部ヲ一発射撃
シ Kubekカフローアーニ倒レタル時更ニ身持ニ二発ノ銃
弾ヲ射込ミタリ右兵士一人ハ事務所ノ方ニ向テ直リ
妻ヲ狙撃シタルカ幸ヒ命中ヲ免レタリ之ヨリ兵士等
ハ銃ヲ持ツテ悉ク一同ヲ追ヒ逃ニ遂ニ彼等ヲ掠奪
品ハ分配ニ與シ同者打テ始メ事務所内ニテ四方ハ方ニ
ハ銃ヲ射セリ本官ハ一同到底射殺ヲ免ムサルヘシト

覚悟シタルカ俤々〇一名、其即巡警来リ兵士等ニ討シ
 最早取ル、中何物也残ラスト告ケテ立退テ勸メ呉レタ
 ル者一時急場ヲ救ハレタリ其ノ巡警ハ吾々ニ何処カ他ノ
 場所ニ避難セヨト勸メタルモ併シ何処ニ避難スルヤヲ提
 議スルヲ能ハサリ此モ兎ニ角巡警ハ兵士充満セル此家ニ止
 ムコトハ不可能ナリト力説シタルヲ以テ一同ハ當モナク巡警ニ
 導カレ内衛小屋ノ処ニ至リ一時此ニ隠レタルカ此ヲ已絶エス
 兵士進メテ一同ヲ銃ニテ脅迫シ身体検査ヲ行ヒタリ結局
 一同ハ銃ヲ鎗ヲ逃ケ出テサント決心シ内前ニ出テタル時兵士
 等ノ態ヲ見テ遠ク落逃ヒ得サル内ニ射殺セラルヘキヲ感

知シタルヲ以テ再ヒ領事館ニ引返シ今交ハ目立タル様
 内衛小屋ノ奥ニ部屋ニ隠レタリ但シ間エテ此処ニ示
 兵士ニ見セラレ身体検査脅迫ヲ受ケタリ此ノ時吾々ノ
 人ハ偶々五名ノ吾水兵カ領事館内ヨリ外出セントスルヲ
 見付ケタルヲ以テ本官等ハ彼等ヲ呼止メ事情ヲ訊ネタ
 ルニ彼等ハ他ノ水兵ノ連中ニ置去リテ喫ハサレタル為ニ彼等モ
 今立去ラントスル所ナルヲ知メタルニヨリ本官ハ彼等ニ外出
 中止ヲ勧告シ同時ニ吾々ト一所ニ止マル様提議シタル処彼
 等ハ之ヲ固アレ此ニ於テ半日吾々ノ總數ハ十二名トナレリ
 茲ニ本官ハ特筆ヲ要スルヲ此等水兵ハ吾々ト同様無武

結ナルコトナリ

Captain Spear

Mrs. Brown 友本官の之ハ騷擾中暴兵

等ニ対シ繰リ返シ去所語ヲ以テ吾等ハ勿論官邸及事

務所共完全ニ掠奪セラル最卑何物ヲ残ラサル旨説明シ

テ與ヘタルカ若シ之ノ云ハカ支那語ヲ語ルコト能ハス得又斯

ル説明ヲ與フルヲ無カリセハ吾々一國ハ生命ヲ危ラシテ避

難スルコト不可能ナリシヲ信スルモノナリ本官ハ深ク憂ヒ

タル所ハ兵士等ハ亦一男子ヲ虐殺シテ然ル後必ス婦人ヲ

強姦スヘキコトナリ

掠奪中支那將校良ク外ヲ歩キ廻リタルモノ人ヲ来リテ兵

士ノ暴行ヲ制止スルモノナク且兵士等ノ暴行ニ鑑ミテ
 彼等ハ外國人特ニ英人ヲ排斥スルノ思想ヲ根強ク注ヘセ
 ラレ居リタリトイハ本官ノ確信スル所ニテ其證據ニハ或
 ル場合ニ吾々ハ特ニ警惕ナル兵士ノ一團ニ對シテ英國人ナリト
 詐稱シテ生命ノ安全ヲ保テ得タル實例アリ彼等武器倉
 庫ノ所在ヲ教ヘシムハク屢々吾々ノ中ノ一人ヲ連シ行カント
 シタルカ一團ハ之ヲ峻拒シタリ何トナレハ之ニ応スレハ其ノ人ハ
 兵士ノ欲望ヲ滿サレサル場合ニハ必ズ銃殺セサルハキコト明カセ
 ハナリ

最後ニ訪シタル一團ハ前ノ幾多ノ集集團ニ比シ最モ警惕

悪ナリ申其中一人ハ青龍力ヲ持テ来リ吾々ニ対シテ經
引後ヲ強要シ如何ナル辨解説明ヲモ圖ハレスンテ
猛烈ニ脅迫シ吾々ハ最早此ノ世ノ人ニアラスト考ヘタリ
申彼ハ本官ノ首ヲ切ルヘク青龍刀ヲ振舞フタルガ其
間髪ヲ入レスニテ幸ニ吾水兵ニ名ヲ外ニテ見付ケタル
支那人將校一名ヲ連レ来ケタルヲ以テ本官ハ同將校ニ
哀訴説明シ先處將校ハ徐口ニ兵士ニ對シ最早ヲ取ルハ
申何物ヲ残ラサルト同時ニ外國人ヲ殺ストモ何ノ利益モ
ケレハ早々立去ルカ宜シカルヘシト忠告シタルニ兵士等モ
漸ク納得シテ引揚ケタリ本官等ハ同將校ニ對シ吾々ニ

保護ヲ與フル様手配アリタキ旨要求シタルニ之ヲ拒ミ

テ立去レリ其時ハ多分三時半頃ト思ハレタルカ數分ノ後

下関方面ノ軍艦ヨリ砲撃開始セラルタリ

吾々ハ最初ノ砲何処ヨリ砲撃セラルルヤヲ知ラズ多分

支那側ノ砲撃ナラント察シタリキ然ルニ水兵等ハ右ハ

Emeraldノ六吋砲ナリト云フタルヲ以テ其後ハ一同稍安心

セリ

吾々ハ之ノ砲撃ハ我軍艦ヨリ応援隊上陸ノ掩護砲撃

ナラスヤト推測セラルト同時に在泊軍艦カ陸上ノ得ル程

近ノ部隊ノ応援隊ニ至リ到底城内突破不可能ナリト考

ハタリ

兎ニ角砲撃ノ效果忽チ表ハレタリ殆モ魔法ノ如クニ市
街ハ静肅ニ歸歸セリ最早其夜ハ飢ヲ飽ス暴兵見舞

ハサリキ(翌二十五日ニ至リ兵士ハ飽エス飢ヲ飽ス出アレタ

ルニ別ニ暴行ヲ為ササリキ)吾々ノ使用チ那人ハ多大ノ

危険ヲ冒シ(若シ前記砲撃ノ效果ナカリセハ右使用人等

ノ素餓モ不可能ナリト思ハル)夜ニナルト同時ニ飢ヲ飽ス

ニソソリ歸リ来リテ吾々ヲ見舞ヒ食物及飲料水ヲ賣セ

リ實ニ吾々ハ早朝以來初メテ一飢食ヲ得タリ彼等カ元

氣付キ始メタルヲ見ルハ此ハ半年兆候ナリト同夜ハ吾々ハ

通宵内巻小屋「床板」上ニテ過シ安眠ス翌二十
 五日比較的静穏ナリモ又大イニ不安ナリキ車官ノ支那
 人書記及ボ一人頭力二十五日早朝出頭シタルヲ以テ本
 車官ノ責任アル支那官憲ニ接触シテ吾々ヲ救助セシ
 ムル様々配方ヲ命ジタリ彼等カ右使命ヲ帯キ外出
 セル故税関但中梁部ノ使用人及其他ノ連中カ詰詰
 類及各種飲物ヲ携ヘ来リ、官邸ニ残リ居リタルニヤ
 下ニテ食シ一同大イニ飲遊シタリ午後三時半頃書
 記トボ一人長降り来リ彼等ハ商總會警察廳交渉
 署及參謀処ニ至リ交渉シタルコト並此等支那當局者ハ

同日午後一同ヲ城外ニ救出ス、ク午配中十ニ旨ヲ報告セリ。
其ノ時市官等ハ外國軍艦側ヨリ支那當局力吾々ヲ
城外ニ送り出スコト能ハシ、ニ午五日晚ヲ期シテ西ニ
砲撃ヲナスヘント通告威嚇シタリ結果支那側ハ恐
ヲ抱キテ救出盡力中ナリ、ヲ知ラサリキ四時過キ
交渉員及參謀長ノ代表者各一名來訪セムカ、檢者
ハ當々タル風氣ノ一物ニレテ上官ノ爲ニ年解大ニ努メ
タリ被苛ハ臂頭程潛力外人ノ生命^財産保護ニ關スル
布告ヲ發表セル旨、後リタルカ之ニ對シ市官ハ外國人
知名既ニ殺害セラル外ハ財産ハ大部分カ掠奪セ

受ケタル後ナレハ右ノ時期ヲ失セルヲ遺憾トスル告
 ケタリ彼の條ニ Captain Spear 及本官ノ兩人ノ支那ノ
 病院ニ入院シ其他ノ連中ニ領ヲ留メ止ルト提議ス
 ルカ本官ノ側論之一提議ヲ峻拒シテ且ニ其軍艦
 Emerald ニ送り居ケラシテ中旨主張シ同時ニ同人ニ對
 シ吾カ領ヲ留メ被害後ノ状態カ如何ニ慘酷カナル
 カヲ知ルヤト反問セリ茲ニ於テ同人ハ吾カバントモ赴
 クヘク自動車ノ準備ヲ有スルヤト尋ネタルヲ以テ
 本官ハ右ノ當然支那側ニ於テ自動車ヲ提供スヘキ
 モナリト告ケタリ暫ク押由答ノ結果結局彼ハ出来

得ル限り居カス、レト承諾シタルカ本官の更ニ如何ニシテ

吾々ヲ軍艦迄送り届クルヤヲ訪ネタル処同人のバンド

ナウの安全ナル、レト云ヘルヲ以テ重ネテ本官の吾々ハ

バンドニ野宿ヲ要求スルモノニ非スト明白ニ切リ込ミ

タル処同人の吾々のバンドニテ必ス汝江用舢板ヲ得

、レト告ケタルカ主憎當時舢板の軍隊ノ為汝江ヲ禁

止セテ居リタルモノナリ

此時明白ニ商賣ヲ目的トス、レテ却紅十字会ノ代表者

現ハレ自分ハ既ニ馬車ヲ持テ来リ且水蒸氣汽ヲモ

用意ス、レテ付即時出発セヨト云、レルカ
Captain

Space 及本官の負傷セルヲトテ馬車ニテ行クコトハ

不可能ナルニヨリ別ニ之台ノ自動車ヲ入手シタリ時ニ

突然故障起リ地ニ交渉員ノ代表者ハ彼自身ノ手

配力完了スル迄ハ途中通過ニ對シ安全ノ保障ヲ與フ

ルコト能ハスト主張シタル為ニ以テ自動車ノ中ニテ

三十名以上引止ナレタリ但シ結局我軍艦再砲撃

威嚇ノ為ニ吾々ハ交渉員ノ許可ナクテ出航シタリ

力率ニ儀鳳内通過ノ際多クノ困難アリタレトシ

ニテ我々ハ午後六時即チ再砲撃豫定ノ如合前ニハシ

トニ到着シタリ此処ヨリ軍艦 Emerald 汽船ヲ以テ一同回

軍艦ニ收容セラルタリ

終リ

大正二年南京事件摘要

一、事件

大正二年九月一日南京開城北軍城內之進入各所ニ
市街戰アリ翌二日午前七時獅子山同十時南内及西
北台相次々子北軍ノ占領スル所トナリ南京遂ニ陥落
シタヒカ九月日本邦人知名カ國旗ヲ立テテ領事館
ニ避難ノ途中張勳部下ノ兵ニ逢テ遮ラレ日本人タルコト
ヲ證明セシニ拘ハラス一名ニ銃殺一名ニ銃創ヲ以テ慘殺
セシ又一名ハ重傷後死亡シ日本商店三十六軒中

掠奪ヲ免レタルモノ僅カニ二戸其ノ他全部商品家財一
物ヲ残サズ掠奪セラル支那兵ハ我店ノ掲揚セル國旗ニ對
シ凌辱ヲ加ヘ旭日ノ部分ヲ割リ取り或ハ之ヲ破壞セリ
二日支那軍艦ヨリ陸戰隊約百名城内ニ向ヒ翌三日朝帝
國軍艦千代田ヨリ陸戰隊二十名領ヲ蝕ニ派遣セリ
城内ノ秩序已漸次回復ニ向ヒタルカ次ヲ四日馮國璋
及張勳ハ城内張勳ハ部下ノ掠奪兵約四十餘名ヲ銃
殺シタル結果市内ハ稍其ノ秩序ヲ回復シタル模様アリ
シモ兵士ノ暴行尚頻ニ軍民心安定セサリシヲ以テ我
艦隊五日南京ニ到着迄更ニ陸戰隊百名ヲ揚陸スル

コトニ決定シタリ然ルニ支那艦隊司令官林葆懌ヨリ
 責任ヲ以テ特ニ我居留民ヲ保護スヘキニ付我陸戦隊
 一揚陸ヲ中止アリ又官申出アリ支那陸戦隊四十名
 支那商店保護ノ爲揚陸セラルタルニ依リ前記我陸
 戦隊一揚陸ヲ中止ノコトトテリ然ルニ張勳ノ態度
 殊實ヲ缺クモノミナラス其ノ部下兵士ニテ依然日
 本ノ對シテ無禮ヲ加フルモノアリ支那艦隊ヨリ上陸
 セル陸戦隊モ元々保護ノ任ヲ任ササリシヲ以テ在南
 京國領ノハナニ艦隊司令官ト協議ノ上更ニ陸戦隊
 七十名ヲ増派シ合計百七十名ヲ以テ總準備スルコトト

尚五回より約十名、巡邏隊より一回居留民の健任
宅に派遣警護せしむるに其後常十名を得たり
二、支那側、元急措置

馮國璋ハ九月四日朱先志外三名ヲ在南京帝國領事館
に派遣シ日本人三名、虐殺並ニ我居留民ニ對スル
掠奪ニ付遺憾ニ堪へず、其次中ヲ述ベ張勳、部下タル
陸軍中將張文生モ同日我領事館ニ來リ同様に挨拶
ヲシタルカ袁世凱ハ九月六日外交總長代理曹汝霖
ヲ在北京帝國公使館ニ派遣シ陳謝、意ヲ表シ至
急真相調査、上処分ヲ爲ス爲メ李盛鐸ヲ南京ニ

特派スル旨申出テ越工ヲ九月七日^在本邦支那臨時代理
外交代表ハ郭氏ヲ外務省ニ派シ本件ニ関シ遺憾ノ意
ヲ表スハ中旨ノ北京外交部事電ヲ傳達シ来レリ
前記北京政府派遣ノ李盛鐸ハ九月十三日總督府参
議陸軍少將劉恩源及馮國勳ヲ從ヘ在南京帝國
領事ヲ表訪シ南京事件ニ對スル袁總統ノ深甚ナ
ル遺憾ノ意ヲ表シ翌十四日在南京領事館負立會
ハ本邦^商店被害ノ實況視察ノコトヲ約シ翌日李ハ隨
員陸軍少將劉恩源及馮國勳ヲシテ本邦人ノ被害
情況ヲ視察セシメタリ

三、善後交渉経過

（一）南京領事交渉

在南京船津領事館、九月五日張勳ニ對シ特別委員ヲ
派シテ我領事館員ニ會シ上本邦商店被害ノ實況
ヲ觀察セシコトヲ要求シタルニ張ハ掠奪兵ノ南軍ニシテ
被害實況共同觀察ノ如キハ劉海軍總長ノ所管
ナル旨回答シタルヲ以テ早速支那海軍當局ニ照會
シタルニ職權外ナリトノ回答アリ再ヒ張ニ照會シタルニ
南京事件ノ調査ニ付テハ中央政府ヨリ特別官吏ヲ
派遣スル旨ニ付其ノ到着ヲ俟ツテ交渉セラルヘキ旨

「回答」馮玉璋在南京帝國領下、被害状況を
検査、要求を拒絶せり。

(二) 帝國政府、要件条件

帝國政府は去る九月九日在支帝國公使に対し我國
民が國旗所持し日本國民タルコトを表明せタルに拘ら
ず支那兵力之ヲ虐殺し且擄奪ヲ恣ニシタルに當り
視平均シテ疑ハサル所ナルニ不拘張勳ノ誠意ヲ缺ク
ルハ甚ク遺憾トスル所ニシテ事件ノ性質頗ル重大ニ
シテ帝國ノ面目上一日ニ速ニ適當ナル解決ヲ要望スル
ハ已ムヲ得サル趣旨ヲ袁世凱ニ對シ切言シ在、諸条

件ヲ要求ス、キ旨電訓セリ。

(一) 虐殺掃蕩ヲ行ヒタル兵卒及直接之ヲ指揮シタル將校ヲ其情狀ニ從ヒ死刑又ハ其他ノ最重ナル処罰ニ

附スルヲ並ニ右処刑ノ新繼續的刑罰ヲ付テハ

宣告ス。二ハ在南京帝國領ヲ又ハ領ヲ蝕負フ立

会シムルヲ

(二) 張勳始メ前記將卒ノ直系上官ヲ最重戒飭スル

ヲ

(三) 張勳自ラ在南京帝國領ヲ蝕ニ來リ帝國領ヲ

ニ陳謝シ、意ヲ表スルヲ

(四) 此係著其他一般被害者ニ対シ相當賠償金ヲ支拂

拂

(五) 此行ヲ敢テシタル聯隊ヲ以テ、我領ヲ蝕前ニ来リ

謝罪ノ意ヲ表スル爲メ、棒銃ノ禮ヲ行ハシムル

仍テ在支帝國公使ハ九月十日袁世凱ニ面會シ上在帝國

政府ノ訓令ニ基キ前記五項ト共ニ支那政府ヨリ帝國

政府ニ対シ更メテ公然謝意ヲ表スルモノ一項ノ外

更ニ我希望條件トシテ

一、張勳ノ江蘇都督ヲ革職スルヲ

二、支那軍人ノ日本臣民ニ対スル傷害、掠奪事件ニ

開スル措置ヲ公示シテ遺憾ノ意ヲ表シ今後斯ル行
爲ヲ再ヒセサルハ中々勿論日本トノ交誼ニ特ニ之ヲ
尊重シ萬々懇リナキヲ期スハト旨 支那官民
一般ニ諭告スル大總令ヲ發スルヲ
一ノ案ヲ申上ル更ニ翌十一日書面ヲ以テ正式ニ右我要求
條件ヲ提出モリ

(三) 支那側ノ解決條件義認

右我要求條件ニ對シ九月十日曹汝霖支那側會議
ノ結果ヲ圖シテ在北京帝國駐在公使ヲ來訪シ
前記我要求ニ付

一 我希冀条件并ニ大統領令發布ノ件ハ既ニ決定セリ

二 我要求条件中五当該联隊ヲレテ我領ノ餉前ニ付

了拂給ノ體ヲ行ハシムルノ件ハ実行困難ナルヲ以テ

之ニ代フルニ海軍若ハ砲台ヨリ発砲シテ谢意ヲ表

スルヲ以テシタシ

三 我希冀条件中一張勅ヲ革職スルハ困難ナリ

ト述ハタルヲ以テ同公使ハ之ニ對シ

一 支那側ニ在テ本件大統領令ヲ南京事件ノ処置

ノ全部終了ニ先テ取リ急キ發布スルヲ便トス

ルノ事情アリ其發布ハ自由ナルモ他日本件

如墨經了、上更、其旨ヲ公示スル大總統令ヲ發布
スルカ必要アルヲ覺悟スルヲ要ス、

二、軍艦又ハ砲台ノ砲ハ無意味ナリ南京事件當該
支那軍持銃ハ當然ニ此等事件ハ他ノ要求條件

ト共ニ寸毫モ譲更又ハ讓歩ノ余地ナシ

三、張勳ノ革職ハ是非斷行スヘシ

ト、趣旨ヲ以テ応酬シタリ、

翌十三日曹汝霖再ニ帝國公使ヲ來訪シ南京事件並
他ノ二件ニ關スル日本國政府ノ要求ハ全部承諾ノ旨ヲ不
取敢袁世凱ノ命令ニ依リ口頭ヲ以テ聲明シ且右帝

國政府ノ電報ヲ讀フ旨ヲ申出テ次ヲ支那外交部ハ九月
十番附屬書ヲ以テ南京事件ニ關スル希望条件以外
ノ事項全部ヲ承認シ之ヲ并理ヲ爲サシムルコトトシタル
旨正式ニ通牒シ來レルハ同覺者中不穩穩當ナル文句
アリタルヲ以テ九月十六日之ヲ訂正ヲ爲サシメタリ。

(四) 希望条件承認ニ關スル交渉。

當我希望条件ニ關シテハ前記ノ如ク支那側ニ於テ
甚テ強ニ總司令ヲ逸罕ヲ發布スルニ決シ九月十二日
發布セラルルニ其要領次ノ如シ。

外交部ノ申報ニ依ルニ本月一日官軍南京ヲ攻復シ兵

匪擾攘之際適々日本人民三名慘殺セラレ日本商
店掠奪セラレタリト思フニ今回兵ヲ用ヒタルハ暴ヲ
除キ良リ安ニシ東洋ノ平和ヲ鞏固ニシ内外ノ商
務ヲ維持セシカ爲ニシテ既ニ再三当該指揮官ニ對
シ取締ヲ嚴重ニシ人民ヲ安撫スヘキ旨ヲ命セリ
然ルニ遂ニ外商ノ掠奪ヲ行ヒ外人ヲ殺害スルニ至リ
タルハ痛恨遺憾ノ至ニ堪ヘサル所ナリ依テ正
督張勳ニ命シ迅速ニ掠殺犯人ヲ取調ヘ軍法ニ
照ラシテ嚴重ニ處刑セシメ且其取締ノ嚴ヲ失
シタル當カ該各官ヲ取調ヘ夫々處刑セシム又

掠奪殺ヲ蒙リタル日本商民ニ就テハ李盛鐸ヲ以テ
損害ノ情況ヲ調査シ其ノ額ニ從テ賠償慰問セシ
クハレ曰支ノ國交ハ素素ヨリ敦睦ニシテ民國成立以來
最親睦篤シ各省文武官吏ハ善ク此ノ意ヲ作シ國交
ヲ尊重シ法ヲ疏忽ニ涉リテ再ヒ此種異変ヲ生ズル
トテ無カリスル以テ本國隣邦ニ倚厚ナルノ真意ヲ
示ス五茲ニ命ス

中華民國二年九月十二日

國務總理

熊希齡

副署

然ルニ我々希望条件第一強勦ノ革職ニ関シテハ支那側
ニ於テ当初ヨリ其ノ実行困難ヲ主張シ前記九月十五日
附覽書中ノ支那側承認条件中ニモ故ク之ニ觸レ
サリシヲ以テ帝國政府ハ更ニ九月十六日在支公使ニ對
シ右方一希望条件ノ急速承諾実行ニ付支那政府ニ
嚴強方訓令セリ
然ルニ支那側ニ於テハ強勦ノ革職実行ハ動亂再発
ノ虞アリトノ理由ヲ以テ容易ニ承諾セサリシヲ以テ九
月十七日在支公使ニ對シ強勦ノ革職断行ニ付袁世
凱ノ慎重ナル考慮ヲ求メシムルト同時ニ若シ本件力

急速実行せうん見込ニ十半場迄之於テハ支那側ヲ
以テ左ノ要求ヲ承諾せしめんヲ一ニ着熟レカヲ速ニ取ル
可キ様重テ訓令セリ

又南滿鐵道安奉線及一切ノ枝線ヲ含ムハ右延長
期百以内ヲ支那ニ還付シテ賣戻ササルヲ

又二ノ事豫テ要求中ノ在記鐵道ニ關スル「ユ」セツレヨ
ヲ承諾スルヲ

但シ右「ユ」セツレヨニハ範圍ハ追テ商議スルヲ

一、四平街ヨリ鄭家屯ヲ經テ洮南府ニ至ル線

六 北平府熱河線

三 四平街奉天間ニ於ケル南海鐵道ノ一莫ト北平府
熱河線トノ聯絡線

四 南原海龍線

然レトモ右訓令ノ執行ハ困難ニレテ南京事件善後

交渉ハ張張華職内題ノ為停頓セシメタル形勢

アリシヲ以テ帝國政府ハ支那側ヨリ張勳ノ革職ヲ

決シ断行スル旨ノ誓約又ハ證言ヲ取附ケテ事件

ヲ先着セシメ滿蒙鐵道内題ハ南京事件ト別

ニ解決スルヲトシ九月廿日右ノ趣ヲ在支公ニ訓令ス

凡ト同時ニ我方要求條件、迅速実行ニ付支那側ニ警告ヲ併セテ訓令セリ

四、支那側、解決条件実行

(一) 強勦、条件実行躊躇

仍テ在支公使ハ在南北領下ニ對シ我要求条件、実行方ヲ強勦ニ督促方訓令シタル力強勦側ハ条件ヲ一付テハ当初南京落城當時、混雜ノ為犯人搜索困難ナルヒヨ回答シテ云ニ付テハ何時ニテモ実行差支ナキニ付テハ關シテ多量ノ兵士ヲ領テ被附近ニ集ム

ルコトハ危険ナリトノ口実ヲ設ケ其実行ヲ躊躇スル様
 様アリ次イテ右ノ三ノ五ニ付一個聯隊ヲ領テ領テ
 派遣スル代リニ張勳自身代表トシテ我領テ領テ未
 訪スルコトトシテ交旨申出テ更ニ又我要求条件中一ニ
 付テハ掠奪兵ノ範圍極メテ小ク之カ左部ニ至リ直
 之知方スル一事實上困難ナル旨ヲ申出タリ
 依テ帝國政府ニ於テハ外ニテ五ニ関シテハ我ニ要求
 条件通り又テ一ニ関シテハ假令犯人ノ查辦困難ナリト
 スルモ虐殺掠奪ノ行ハレタルハ固知ノ事實ナリヲ以
 テ虐殺ヲ行ヒタルモノハ死刑ニ掠奪ヲナシ又確證ナキ

其ノ鑑ヲモリ、夫々嚴重処罰セシムルコトニ嚴張方
九月廿一日在支公使ニ訓令シタリ

然ルニ張勳側ニ於テハ其後或ハ謝罪ノ為我領ヲ領

ニ来ル際ハ服毒装ニ付照会ニ或ハ捧銃ノ禮ヲ行フ場

合ニ於ケル我領ヲ一応接振ヲ肉合ニセ来リ或ハ又

捧銃ノ禮ヲ行フ際ハ兵船ニ付兎角、言ヲ為ス等

種々ノ口實ヲ設ケテ我方要求条件ノ実行ヲ躊

躇ニ居タルヲ以テ在南京帝國領下ハ九月廿四日

張勳ニ對シ我要求条件ヲ実行スルニ付テ誠意ナキ

モノト認ケル旨並ニ之カ為何等重大ナル事態ヲ惹

起スルカ如キ、コトアラハ其責任ハ張ニ在ル旨ヲ警告シ
 同日九時迄ニ張ヨリ書面ヲ以テ破産セシムルコトトシ
 同時ニ自衛ノ為メ我陸戦隊百四十名野砲二内機關
 砲内ヲ東ニ揚陸スルヲ法シタムカ同日夜張勳部
 下參謀等我銃ヲ鋸ニ束リ排銃ヲ行フニ兵士ノ
 動減少ヲ懇願スル等猶遂ニ居ルヲ以テ廿五日在
 支公使ヨリ外交部ニ對シ嚴重交渉スル所アリ其ノ
 結果遂ニ廿七日午後ニ至リ翌廿八日我條件ヲ実行
 スル旨公文ヲ以テ張勳ヨリ在南京領事ニ回答
 スルニ至レリ。

(二) 條件ヲ三及ヲ五ノ實行

廿八日午前九時張勳ハ參謀長譚毓昌前清交涉
使汪嘉棠及交涉局通譯ヲ伴ヒ南京帝國領事
館ニ來リ領事ノ面前ニ旋リ部下軍隊ノ暴行ニ對シ陳
謝ノ意ヲ表シ同日午後三時張勳ハ陸軍中將白室
山ノ駐軍ナル部下云管ハ九百名及軍樂隊ヲ我領
事館前ニ派シ帝國領事館員及陸戰隊指揮
官ノ面前ニ旋リ「君カ代」ヲ合唱シ捧銃ノ禮ヲ行ヒ
タリ又之ヨリ先在本邦支那臨時代理外交代表
ハ中國政府ノ命ニヨリ九月十七日附公文ヲ以テ帝國政

府二陳謝，意ヲ表ス

(三) 条件才一及才二、実行

帝國政社、九月二十九日在南京領事長在支公使ニ對シ

条件才一並才二、取急ニ実行スル様嚴重督促方訓電

ヲ發シ在南京領事長ニ基キ張勳ニ督促シ先此十月

日張勳同領事長ヲ訪問シ嫌疑者一名逮捕、旨ヲ告ケ

次、同月四日嫌疑者更ニ一名逮捕シ合計二名、嫌疑

者ヲ逮捕シタルカ嫌疑者、此上十名並犯人及其

ノ所屬長官、処罰ニ關シ、(一) 正犯二名銃殺、(二) 什長

監禁五年、(三) 哨官褫職免官、(四) 管帶官記過五

統領（陸軍中將白金山）申付ヲ提案シタルヲ以テ我々
 事ハ之ニ對シ（一）監禁十年（四）免官（五）記過ニ之
 ヲ要求シ尚馮ノ控奪兵ノ處罰ニ關シ其ノ兵數ハ實際
 上二百名ニ止マラズ且確ナル證據ヲモテテ漫然之ヲ処罰
 スルコト困難ナルヲ付不問ニ附セシテ之ヲ求メタルヲ以テ
 帝國領事ハ至急二百名ノ監禁及其ノ所屬士官ノ免職
 実行ヲ勸告セリ
 右ニ對シ右日夜張側ヨリ公文ヲ以テ（一）虐殺正犯二名ハ死刑
 ニ（二）此ニ十月七日午前六時執行スヘシ（三）犯人ノ直接長
 官タル什長ハ監禁十年（四）哨官ハ軍職軍官ヲ統

革之(四)管兵(五)免之(五)統領白室山ハ記過等科領事
要求通取計之(一)決定セム旨回答アリ尚餘奪兵ノ処罰
二開之形式大百名ヲ二ヶ月監禁スルコトトシ其實之ヲ
執執行セズ又監禁処罰ノ宣告ハ右百名中ヨリ十名
大代表ヲ選ヒ之ニ命ジテ申出タルカ十月七日處殺犯
兵卒二名ヲ死刑ニ直接上官ハ什長記得勝ヲ監禁
十年之処シ且哨官陸軍少尉鄭玉文ノ陸軍官職ヲ
免シ管官陸軍中佐王夫鐸ノ中官ヲ免シ右兩人
共永久軍務ニ任用セサムコトトナセリ同夜接奪兵九
十四名ニ對シ我領ヲ宣言ノ上ニ禁錮二ヶ月ノ宣告ヲ

與一掠奪犯兵卒二百餘名之事。事後支那官憲三旋
予隨時處刑ヲ下セリ。且其土官全部ヲ免官シ更ニ
十月八日江蘇都督張勳ニ對シ嚴重戒諭ヲ加
シ又陸軍中將白雲山ヲ譴責ニ処スリ

(五) 條件第四、實行

損害賠償、實行ニ關シテハ事件完全直後九月五日帝
國政府、在南京領事ニ對シ被害ノ調査ヲ電知シタルヲ以
テ同領事ハ同領事館ニ於テ豫メ調査セル所ニ依リ同地
本邦商人資本金額（約三十五萬圓）及一年ノ取引額
ヲ基礎トシ算定、結果損害額ヲ約八十萬圓ニ見積

リタルカ右見續額の外務省、見込ト多大、相違アリタ
ルヲ以テ帝國政府、九月十三日同額ヲニ對テ右ノ次ヲ
ヲ申送り至急居留民ノ損害ヲ嚴密ニ査定ノ上報
告アル様電訓シタリ

依テ同額ヲ、更ニ本邦人ニ對シ國匪事件ノ例ニ準シ損害
屈出方ヲ命シ帝國政府ノ承認ヲ經タル上右標準ニ依リ
最初要償總額ヲ銀九十五萬四千九弗ニ査定シタル
力在支公使ニ於テ右査定額ノ多額ニ過キ排外的ヲ
要ト爲ル本件ニ於テハ革命事業ノ例ニ依リ査定スヘキモ
ノナリトノ意見ナリシヲ以テ本官ニ於テハ九月二十五日革命

事實損害、振台卜本係之關スル支那側ノ意嚮トヲ考
酌シ嚴重審査ヲ加ヘ不當ニ涉ラサル様査定スヘキ
旨再訓シ仍テ南京ヲ領リ左ノ趣旨ニ依リ更ニ當
初ノ査定定收ノ申舞ヲ告ヲ加ヘタシ申告額ニ査定
ヲ加ヘ申告額ハ七〇六、二九九弗ニ付シテ一回査定ニ
於テ其額ヲ九八七、四五五弗トシ其後平素ノ生活
及營業狀態並損害ノ程交ヲ参酌シテテ二回査定
額四一七、五七四弗ヲ決定セリ

在支帝國公使ノ交渉、都合上右ノ一回査定額ニテ
十一月十九日附覽書ヲ以テ洋銀九拾八萬七千四百五

拾五萬、賠償ノ外、支部ニ要求シ、右、提出額ヲ基
礎トシ、其後支那側ト交渉ヲ要スル結果賠償金
總額、遂ニ六十四萬八千八百四十五兩ニ決定シ、大正
三年一月二十四日、右金額全部支那財政部ヨリ、我横
濱正金銀行ニ支拂ヲ受ケタリ、

(六) 希望事項ヲ一、實行

我希望事項第一強勸、江蘇都督冕官、件々其後
在支帝國公使ニ於テ前記九月二十日、電訓ニ基キ、
屢次支那側ニ交渉シタル結果支那側ニ於テハ主義
上別ニ異存アル、次、支ナラサル元、唯當時、支那財政ノ

狀勢上直之。之ヲ実行シ難キ事情アルヲ以テ相
當ノ時日ヲ假サシテ旨一揆揚ナリ。之ヲ以テ帝國政
府、九月二十四日支那側ヲ以テ張勳冤官ニ関スル
我々希望ニ對シ支那政府ニ於テハ主義上異存ナキ旨
回答シタルヲ在支公使ヨリ帝國政府ニ報告スルヲ
テ承諾セシタル様訓令セリ依テ在支公使ハ九月二十五
日態希軍中齡ニ面会シ在訓令ニ基テ懇請ヲ遂ケ
タルニ其ノ際態希齡ハ張革職実行方取付ヲ可ナリ
以テ之ニテ事ヲ済マサレタキ旨懇請シタル其後屢
次督促ノ結果遂ニ十二月十六日附大總統令ヲ以テ

愈々強敵ノ江蘇都督覓官ノ旨發布アリタリ
 然ルニ之ト同時ニ強敵ヲ新ニ長江巡閱使ニ任シタルヲ以
 テ其懲戒処分ノ事旨ニ副ハサル次ヲテ指揮ヲ摘シ
 テ説明ヲ求メタルニ其那政村ハ強敵ハ其部下ニ多
 數ノ兵ヲ有スルヲ以テ何等カノ職務ヲ與ヘスシテ其
 俸覓官トナストキハ部下ヲ統御シ得サルトナリ秩序
 紊乱ヲ来ス虞アルカ爲機宜ノ措置トシテ長江巡閱使
 ニ任シタル次ヲナルカ右ハ一ノ閑職ニシテ鎮撫使ノ如キ
 一定ノ實權ヲ有スルモノニアラサルハ勿論都督トハ其ノ地
 位ニ於テ已著シキ懸隔アリ現ニ之カ爲強敵自身ニ就

職ヲ嫌ヒ再三辭任ヲ申出タルモ辛ウシテ慰撫シ漸ク
受任セシメタル程ニテ其那政府カ江蘇都督官トシ
時ニ張勳ニ他ノ職ヲ與ヘタルハ其那現下ノ事情ニ
不得止次ヲ口トル旨懇ニ説明スル所アリタルヲ以テ帝
國政府ニ於テ其ノ誠意ヲ諒トシ日支國交ノ大局ニ顧ミ
我々希望条件中一ノ之ヲ以テ解決ト看做スヲトナレリ

南京事件顛末

一 南京之於聯合國警備計畫

南京は各國共居留民大多數城内に居住し、日本

商人は支那街に散在せる者多かり、以て従来各國

領事共事変勃発の際には居留民の保護頗る困難

ナルを以て感ぜしむ、特之下関に城内に、尚ほ異國十

餘戸有るを以て支那兵の戒嚴を突破して公然武装

陸戦隊上陸せしむるに始り、不可能な事情アルに付

曩に南京領事団より支那側に對し有事の際外國居

國民保護ノ為陸戰隊上陸ニ関シ默認ヲ與ヘテモ
 旨内交渉ヲ試ミタルコトアルヲ安那側ノ承諾スル所
 トナシ其結果近年ハ各國側若形勢危急ノ微ヲ認
 ズル場合ニ可成早目ニ武裝セサル少部、水兵ヲ各國
 領事館ニ上陸セシメ水鏡ハ現ニ各國領事館ニ備付、
 之ヲ使用セラルコトトシ更ニ領事館ノ安全カ力
 ナル虞アルコトヲ以、各國領事館ト軍事艦側ト由
 二適當ノ方法ヲ以テ通信協議ト列國共同ノ陸戰
 隊ヲ組織シ域内ノ破壊シテ域内ニ侵入シ在陸
 大學、日本領事館、英國領事館、道順ニテ各國

居留民ヲ全部海外ニ撤退セシムルヲ、協約成立ニ居
リタリ右、趣旨ニ従ヒ五月七日外警備駆逐艦横
松及桃ヲ指揮スル外二十四 駆逐隊司令吉田中佐、
所在美米兩國指揮官ト、由ニ聯合警備計畫ヲ
策定シ各國民居留民ノ保護ニ関シ彼我協力ノ部署
ヲ協定ス其、要領老ノ如シ

1. 陸戦隊ハ各自國領ヲ、請求アル之邦ナリニ揚陸セ
ズ何レノ場合ト雖モ陸戦隊ノ揚陸ノ際ハ即時他
國先任指揮官ニ通報スルコト、

2. 擾亂生起ノ情況判斷

(1) 軍隊撤退、時此、場合掠奪、虞アリ、

(2) 敗北軍、後、軍隊潰走、時此、場合掠奪、確
実ニシテ外人、生命、危険アリ

(3) 南京方戦場トナル場合

(4) 南軍南京占領後排外熱ヲ煽動スル時

3. 居留民保護ノ手段

(1) 婦女子ハ多大ナル擾亂生起前撤退セシム各

國同時ヲ可トス但シ之方為時機ヲ失セサルコト

(2) 各方面ニ散在スル外國人男子ハ必要ニ応ジ速者

位置ニ集合セシム、此、場合財産一部ヲ放棄スル

(1) 外國人全部ノ庫船又ハ艦船ニ撤退セシム。此ノ場合財産ヲ放棄ス。

4. 処置

(1) 各國領事官各自國ノ適當ナル如群ニ命令名簿ヲ作製シテ各群ノ指揮者ヲ定ム。

(2) 撤退者ハ各自江岸ニ到リ英米人ハ太古蘆船、日本人ハ日清蘆船ヲ軍艦ニ避難ス。

(3) 婦女子撤退中各國ハ充分ナル陸戦隊ヲ撤退地ニ配置ス。

(4) 婦女子撤退ニ法上、各國軍艦ハ各自領事館トシ

内ニ视觉通信装置ヲ設ケ同時ニ士官一名ヲ領ス
館ニ派遣ス

諸君國保護名權

美米 自國領ヲ領、美學社宅及金陵大學

日本 帝國領ヲ領

(1) 右ニ於テ陸戦隊ニ護衛セラル各自乗船所ニ撤退ス

成ルハ各國左時ニ撤退スルモ地理的關係上先ソ

日本より開始シ途中英米人ヲ收容ス

二 陸戦隊及警戒隊、揚陸並警戒

1. 下関

当方面ノ形勢切迫スルヤ吉田司令ハ三月二十四日午前
九時半桃ヨリ川田大尉ヲ引率スル陸戦隊二十九名
内海士官以上三名ヲ日清蘆船ニ派遣シ翌二十三
日午前八時半之ヲ十八名一海士官以上二名トモ
同日午後五時下関ニ激シテ銃声起リ山東軍ハ右往
左往シテ江岸混乱ニ陥リ流弾飛来甚シ依テ午
后六時海風(二十二日乗着)ヨリ特務士官一下士官
兵十六名日清蘆船ニ増派シ午後七時八分内火艇
一隻及「カッター」二隻(艇員十七名)ヲ派遣シ陸戦
隊ニ附属セシム爾後日清蘆船ハ陸戦隊五十二名

一准士官以下四名指揮官川田大尉ヲ以テ之ヲ守備セリ
防備状況左ノ如シ

藁船内、釣床、疊、荷物或ハ米袋ヲ累積シテ防

弾設備ヲスル本設備ハ二十三日午後四時半完成セリ

同日午後五時下関江岸混雑スルヤ棧橋入口ニ鉄条

網ヲ張り接續棧橋中ヲ取脱シ且一切支那兵ハ

非立入禁止ヲ告示ス

2. 南京

司令ハ二十二日午前下関ニ揚兵スルハ同時ニ通信連

絡ヲ主任務トスル警戒隊荒木大尉外下士官兵四

名〇一山銃十九拳銃十一回彈藥包無線電信機
若干ヲ携行シテ南京領ヲ蝕ニ派遣ス當時城内栗
林病院ニアリシ病兵二名ヲ收容シ一為ノ神代軍
醫少尉及看護兵二名之ト同行セリ。

右ノ警戒隊ハ自郵車ニ台ニ乗シテ一自郵車ハ
荒木大尉乗車ハ無ク儀鳳門ヲ通過セシモ朝来
警戒特ニ嚴重トナリシ際トテ亦二自郵車ハ城
内番兵一為ニ抑留セラルルニ至リ荒木大尉ハ直ニ
現場ニ引返シテ之ヲ辨明セシモ要領ヲ得ズ結局
同執法知(下関ニアリシ)ニ出頭セリ。

（当时北軍幹部に南軍更衣隊の活躍を恐れた城内
ニテルヲ忌み、急ク下関ニアリタリ）

執事処ニ向テ途中指揮官の軍医少尉ヲシテ須藤病院
（下関ニアリ）ニ立寄り、右ノ情況ヲ司令ニ報告スルト共
ニ之ヲ傍ヤリニ通報セシメタリ、

右ノ報ヲリ給フハ直ニ浅賀書記長、木村署長等ヲ

道シテ山東軍憲ニ対シ嚴重交渉セシメ、容易ニ場

明カス午後四時、退軍医少尉帰郷シ右ノ詳細ヲ

司令ニ報告ス司令ハ領テ、部下連連絡ヲ保ツト共ニ更

ニ兵三名、通訳一名ヲ派シ、内兵一名ヲ其後、執法処ニ残セ

斯ノノ年段ヲ尽シテ獲得セシモ容易ニ解決セサルヲ
以テ爾後ノ交渉ヲ外年段ニ俟ツコトニ決シ年段十
時半頃右人負一士官一下士官兵七ニ執法処ヲ出テ
途中交渉処ヲ經テ二十三日午前零時半領事館ニ
到着ス

同朝看護兵二名ハ痲痺二名ヲ伴ヒテ帰艦ニ同時ニ
領テ館ニ入リ下士官兵五名ヲ増派セラル部爾迄
南京館ヲ館ニアリシ警戒隊ハ荒木大尉外下士官兵
十名ナリ

夕刻ニ至リ北軍ハ續々下関ニ向テ退却ヲ開始セ

ルヲ以テ同夜鎖ヲ鎖ニ於テハ前内ヲ鎖シ内ニ土囊
ヲ積ミテ射坐ヲ設ケ機銃一内ヲ備ヘ兵員ハ領事
館ニアル武器ヲ以テ武装警戒シタリ

3. 南京下関内ノ連絡

二十三日午下迄ハ下関南京間ノ交通ハ可能ナリキ
電話連絡ハ初メ下関三星洋行ヲ介シ二十三日午
以迄日清蘆船ヲ仲介トセリ電話ハ二十四日南京領事
館接奪直前迄可能ナリキ

三、在留邦人、避難

南京附近、形勢急迫スルヤ森岡領事ハ二十日既ニ避難準備ヲ命シアリシカ之ヲ実行セシメテ如シ

1. 下関

三月二十日午後五時頃一部ハ二十一日夕ヨリ避難セシ、在留婦女子全部三星洋行ニ避難ス、二十三
日午前男子全部亦同所ニ集合ス、總計二十四名ナリ、
二十三日午後下関、形勢不穩ナリシヲ以テ午後
四時避難民ハ全部日清蘆花船ニ引揚ケ南モナク下
関一帯敗兵ノ射撃始マリシヲ以テ午後六時蘆花船

ノ婦女子全部及男子ノ希望者ヲ驅逐艦松ニ移セ
リ、當時男子七名ハ携行ノ財産ト共ニ高臺船ニ残
留シタリ、

2. 南京

二十二領事ハ不取敢在留婦女子全部ヲ領事館
ニ避難セシム、翌二十三日午後五時頃山東軍ノ敗
兵南京ヨリ城内ニ雪崩レ込ミ下関ニ退却ヲ始メ
タルヲ以テ領事ハ直ニ在留男子全部ノ引揚
ヲ命ジ引揚困難ナル一部邦人七名ノ外午後八
時頃在留邦人全部ハ領事館ニ避難ヲ了ス、

四、南軍ノ暴行

1. 下関

二十四日午前七時南軍ノ先頭一、二、七師並長楊
杰ノ部下ハ上流地区ヨリ下関ニ進メテ潰走スル
山東軍ヲ急追スルト共ニ下関ニ在リ泊リ外國艦
船ニ對シ無秩序ナル亂射ヲ行ハリ
午前七時五十分江岸ノ山東軍ハ全ク掃蕩セ
ラレシメ勝利ヲ誇レル南軍ハ一擧ニテ旗幟明瞭
ナル各國躉船ヲ猛射シ日清躉船ニ命中セル
彈數ハ約四八十二发アリ午前八時十分佐藤一

機南兵ハ蘆船内税関吏室ニアリテ此ノ猛射ノ中

ニ殉職ス

茲ニ於テ蘆船守備ノ指揮官ハ在留邦人ヲ

蘆船外側ニ繫留セル短艇内ニ避難セシメタリ

此ノ凶暴兵等ハ我制止ヲ肯セズ避難邦人ノ手

荷物等ヲ破壊掠奪セリ

午前九時二十分駆逐艦桃出動シ蘆船側方ニ

来援シ全負ヲ收容ス當時下関各團蘆船亦同

様奔掠ヲ蒙リ且ツ美米避難民ハフスタングードヒ

ルニ於テ迫害ヲ受ケツツアリシカ之ヲ力救護ノ

三日

爲午後三時四十分英米軍艦に遂に城内砲撃
ヲ開始セリ砲撃は約一時間及ヒ発射弾數二百
二達ス

吉田司令は城内邦人の情況尚不明ニシテ城内
砲撃は其處殺ヲ誘致スヘキ虞アリトシ此ニ
参加セサリキ

2. 南京

2. 一般

(1) 二十三日夕刻北軍は全ク領事館前ヲ退却シテリ
翌二十四日午前五時半頃南軍は先頭現ハレシ力

其ノ後約一时尚半ニシテ南軍暴兵ノ團入ヲ見タリ
四下閉ト一電話連絡ハ二十四日午前六時四十分一通
強リ以テ最終トスルモ南軍團入时尚通話可能ナ
リシカ暴兵ハ侵入ト共ニ之ヲ破壊切断セリ

(11) 初メ敵軍ハ南軍ノ入市スルヲ見テ十中八九迄危
機ヲ脱スルモノトナシ此際少部ノ兵ヲ以テ敵軍
支那兵ニ對抗スルハ絶對不可能ナリ寧ロ党軍
及民衆ノ敵愾心ヲ挑発セザル爲早キニ及ビテ防
備ヲ撤去スル方有利ナリトナシ之ヲ指揮官ニ要
求シタリ指揮官ハ之ヲ容レテ機銃射撃ヲ撤シ望

我隊ノ武装ヲ解キ之ヲ一松格納セシム

(二) 午前七時頃南軍ノ一隊約三十名来館シテ山東

軍ノ有無ヲ尋ズ航ヲ靜ニ引揚ケタリ之ヨリ

同金ク東進安心シテ茲ニ館内ヲ開放スルニ至リ

然ルニ計ラザリキ暫時ニシテ約五十名ノ南軍正規

兵ハ我制止ヲ聞カス舊進シ来リテ忽チ眾砲掠

奪、暴虐、限リテ居セリ

(ホ) 指揮官ハ既ニ館ヲ其ノ他ノ意見ヲ容レ右ニ對シ

居留民一同ハ館ヲ迄警戒隊員ニ對シ武力ヲ使

用ヲ避ケラレタルニ付森岡館ヲモ右ハ

已ムヲ得サル要求ナリトシ荒木大尉ニ協隊ニカ

ル大尉モ同ノ要求モ了解トシ總忍以テ武力ヲ

施シ避ケタルニ決心セシモ差シ彼等ノ暴虐ニシテ

ノ虐待殺シ擧ニ出ワルニ至ラハ一方萬難ヲ排シテ

急テ駆逐隊司令ニ報セシムルト共ニ死力ヲ尽シ

テ邦人ノ守護ニ任スルヲ強メ最後ノ配備ヲ定メ

居タリ

b. 接奪暴行ノ状況

(1) 暴兵團入時館内ニ下士官一名兵四名ナリシカ

暴兵ノ其ノ制止ヲ圖カスレテ物ヲモ言ハス実ニ

来リ銃剣ヲ以テ一兵ヲ刺突シ其外套ヲ傷ケ次
ニ砲撃打シ其所持品ヲ強奪セリ。

下士官ハ高聲ニ支那語ヲ解ルン者ヲ求メ揚ヲ求メ

以テ事務所ニ駆ケ込ミシカ高聲ニ応シテ出テ来リ

シ書記生亦立所ニ砲撃打強奪セラルタリ、續

ニ米木村署長直ニ現場ニ駆ケツケシカ之亦暴

兵ノ為組撃セラルテ傷キ其所持品ヲ強奪セ

ラルタリ

斯クテ暴兵ハ砲撃シツツニ方ニテ事務所及官邸

ヲ襲ヒ茲ニ全般ノ掠奪暴行ヲ開始シ爾来自

動車、馬車、人力車等、運搬具ヲ用ゐルニ尚續
々侵入シ来レル多知、暴兵（百五十乃至二百名）に構
み限テ横行シ堂々青天白日旗ヲ携ヘテ口々ニ
「日英帝國主義打破」「華俄一家」「日本人ノ財産
ハ支那人ヨリ奪テ上ケタルモノナレハ奪回ス」レ
「日英兩國ハ數年來上海ニテ支那人ヲ虐待シ
タリ」等ヲ叫ビテ、発砲脅迫掠奪等兇暴ノ
限ヲ尽セリ、

(四) 此ノ間多知、支那市民（女子供ヲ含ム）に暴兵
ニ尾レテ侵入シ来リ年當リ次々之ニ鎗弾、器物ヲ

持々去レリ、

(11) 損害

銃子ハ痲臥中ナリ、レカ腐衣夜具迄割キ取ラレ
ニ発シ、粗撃シ受ケタル等三時間ニ亘リ子固断
ナリ生命ノ迫害ヲ蒙レリ、

根中陸軍少佐及和田巡查部長ハ初ノ事務
所ニアリ、レカ倉庫ノ鍵ヲ強要サレ子銃尾ヲ
以テ腰部ヲ強打セラル、根中少佐ハ更ニ官邸
ニ於テ銃剣ニテ脅迫サレ遂ニ左腹部及臀部
ヲ刺サル、

木村署長の小銃ニテ狙撃せられ右腕前膊部ニ貫通傷ヲ受ケタリ、

一般ニ所持品ハ固ヨリ着衣帽子ニ至ル迄剥奪セラレ子供ニ対シテハ強シト暴行ヲ行ハラス僅ニ

業靴ヲ奪ハレタルモノアリ、被褥、武器、諸器

具、糧食ハ固ヨリ床板、畳ノ縁、便器ノ末ニ至

ル迄剥奪セラレ最後ニ遺棄セラレタルモノハ大金

庫、ピアノ、自動車及無電用モーター、自動車内

ニアリナリ、

掠奪セラレタル武器左ノ如シ、

在領了銃式書、中銃三十、彈藥包約三萬、
海軍兵器、機銃一、同彈藥若干無線電傳

機一基

(二) 最も執拗ナル迫害ハ容易ニ開ク能ハサリシ二個ノ

金庫ヲ中心トシテ繰返シ繰返シ最後迄行ハレタ

リ一ツハ御算其、他一機密書類及銀三千弗ヲ格

納セシ大金庫ニシテ事務所ニテリ領了ハ後庭ニ

其集合後其ノ鍵ヲ受取リテ炊事場煙突ニ投

棄セリ其ノ後ト雖モ暴兵ハ屢々一人一人ヲ銃剣

ヲ以テ追立テテ金庫室ニ達シ行キ之カ開放ヲ迫リ

テ止マサリキ。

領事ノ病室ニアリテ數回ニ亘リテ死砲脅威ノ因

トナリシモノハ他ノ小金庫。(數百弗在中)ニシテ小

隊長並黨代表ヲシテモノ自ラ兵數名ト共ニ領

事其他ヲ迫害セシモ流石ニ小隊長ハ領事ノ生命

ヲ庇護スル態ヲ採リテ金庫ハ最後ニ何者ニカ

持チ去レリ。

(ホ) 午前十一時頃ニ至リ暴兵ハ「ガソリン」ヲ搬出シ窓

部ヲ燒却セシ等揚言セリ。

(ハ) 邦人全部カ後庭ニ集合シタル後ト雖モ暴兵ハ屢

々来リ予暴最後ノ一物ヲモ餘ニ所ナク掠奪セリ、

(11) 域内各邦人家屋ハ引續キ破壊掠奪ヲ蒙リ

C. 結束、

(12) 邦人ハ領下官邸裏内ノ前後ニ集合シ板坂日本

人会長ハ暴兵ノ官邸焼却ノ揚言ヲアリ、官邸ト

云死リ共ニスト締シ予動カサリレ領下ヲ说得シ

予強子右ノ避難信置ニ連行シ茲ニ領下モ亦邦

人一同生死ヲ共ニスレトナシ全負ヲ集合セシメタリ、

(13) 居留民ノ一部ニ此際合離脱出ヲ希望スル者アリ

リ、是モ領下ハ域内ノ安全ヲ確認セサル限り各人

各名離行郵ヲ許サスト之ヲ年々尚連絡兵ト
シテ兵負ヲ下關ニ送ラントノ議アリ兵負中ニモ而
之ヲ志望スルモノアリレモ言語不通ノ兵負ヲ以テ
連絡ヲ計ラントスルハ無益ニ之ヲ死地ニ送ルモノ
ナリトスル歟一意見ニ基キ之ヲ取止ム、

(イ) 午前十時半頃偶々才六軍才六師党代表兼政
治部主任蕭勁夫リテ暴兵ヲ政打制止シ之ヲ
追ヒ拂ヒタル後歟ニ面会シテ切リニ遺憾ノ意ヲ
述べ「暴兵ハ才六軍及才六軍中ノ不良分子ノ所爲
ナリト辯明シ以テ嚴重警戒スヘシト声明シ何レ

毛不自由ノモノアリハ申出ニシテオホナタリお不
取敢糧食及消毒品ヲ必要トスル旨要求セリ、
次子牙石師長戴岱ヲ伴ヒ来ル同師長ハ同レク遣
憾ノ意ヲ述ハタルモ態容不遜ナリ兎モ角モ當方
ノ要求ニ當リ左記邦人保護ノ告示文如故ヲ鉛
筆書シテ残シ行ケリ
航子彼等ハ五名ノ警戒兵ヲ配備シテ歸去シ
恰刻消毒品ヲ送り来リタルモ食糧ハ遂ニ之ヲ
送ラズ、

外僑住所、不進入内、如有侵犯、立予槍挾

師長印(戴笠)

党代表印(蕭勁)

d. 掠奪法、領事館、状況

茲ニ漸ク避難邦人の生命ノ追害ヲ免ムタルニ
隣接スル金陵大學ハ尚續々掠奪ヲ蒙リマ
アリテ危機當全ク去ラズ午後一時半市街ニ
リテ最後ノ邦人二名到着シ同ハ先ヲ領
官邸ノ一室ニ集合シ使用其邦人ニ依リ買
替ヒタル其那饅頭及着茶ヲ以テ僅ニ饑渴ヲ
医シタリ、

然ルニ午後三時四十分ニ至リ下関ニ當リテ殷々
タル砲聲起リ同方面ハ南軍續々城内ニ退却シ
来ル艦ヲ外國陸戰隊者援スヘシトノ説アリ
シカ来タ其ノ影ヲ已見サルニ早クモ南軍再ヒ
下関方面ニ進出セリ始メタルヲ以テ差シ帝國艦
逐艦ニテ該砲撃ニ参加シタリトセハ領事館
内邦人ハ虐殺ヲ免レサルヘシト感シ一同再ヒ異常
ノ恐怖ニ襲ハル
茲ニ指揮官ハ南軍再入ニ對シテハ死力ヲ
尽シテ抵抗サルヲカラスト決心シ諸般ノ配備ヲ

室々者夜兵負ハ徹宵交代ニ警戒ヲ嚴ニセリ
斯クハ如キ不宥禮ニ二十五日午前十時半吉田司令
一行ハ来着セリ避難邦人ハ狂喜シテ之ヲ迎ヘ領
事ハ荒木大尉ノ行動ヲ感謝シ且吉田司令カ自
ラ決死隊ヲ組織シ宇城内ニ乗込ニ居留民ヲシテ
九死ニ生リ得ルノ思ヒアラシク先勇敢ナル行動
ト熱烈ナル同情トニ對シ特ニ居留民一同ヲ代表
シテ满腔ノ谢意ヲ表スル所アリタリ

3. 司令一行領テ銀匙ヲ詳細

三月二十五日午前七時十五分前記陸戦隊集積ニ集

司令部一場ノ列示ノ後七時半順和碼頭ニ上陸セリ
附近ノ電話ノ何レモ破壊サレテ使用スル能ハス唯三
重洋行ノミハ電話完全ナリニモ銀子銀トノ通話
ハ不能ナリ茲ニ於テ陸戰隊ハ予定ノ如ク海陵
内ニ向ハントセシ際南軍ノ士官多クシキモノ二名ト
会シ決テ偶々程潜ノ信書ヲ獲テセル一紙ヲ字会
負ノ素以テ得リ其信書ノ内容尤ノ如シ
暴行セシハ敵軍ニ煽動セラルタル暴徒ナリ各國
力当然平和ノ交渉ヲ待タスニテ砲ヲ見ルニ至リ
シハ遺憾ナリ程總指揮已ニ入城シ責ヲ負ヒテ

乱徒ヲ鎮圧シ外人ノ生命財産ヲ保護スハ中ヲ
以テ砲撃ヲ中止サレタレ

司令ハ即時在留民救出ノ必要ヲ感シ陸戦隊ノ

城内ニ進入ヲ計リシモ彼等ハ時局柄之ヲ避ケタレ

旨懇請スル所アリ司令ハ茲ニ於テ少數人員ヲ

以テ入城スハ中ヲ決心シ陸戦隊ヲ江岸ニ陣シ

杉浦大尉ヲ上通沢及下士官兵四名ヲ従ハ南軍

將校及紅十字會員各一名ヲ伴ヒ自動車ニテ

城内ニ入リ時ニ午前九時二十分ナリ午前十時半司

令ハ行ハ領事館ニ達シ避難邦人全ク総局ヲ

開ケテ正午司令ハ浅賀書記生ト共ニ司令部ニ
赴キ程潜ト面談ス、程ハ深ク之ヲ陳謝セリ當時
城内尚掠奪行ハレ居ケテ以テ速ニ邦人保護ニ努メ
ニコトヲホメ午後二時頃一行ハ才十七師長楊杰
ヲ伴ヒ歸來ス楊ハ避難民ノ面前ニ於テ領テニ
對シ日本語ヲ以テ遺憾ノ意ヲ述、且構内ノ慘状
ヲ巡視シタル後引取レリ

4. 撤退

是ヨリ先大倉庫内容取出シ、關シ支那衛兵ハ之
ヲ妨害シツ、アリシモ楊杰ハ直ニ之ヲ承認シタル

ヲ以テ茲ニ大金庫ヲ破壊シテ先ツ御眞影ヲ並
ニ機密書類ヲ取出シ不取敢杉浦大尉、和田部
長及水兵一名護衛ノ下ニ下関ニ送リ午後四時五
十分無テ驅逐艦格ニ奉送セリ。

時ニ恰ニ美米軍艦ハ當夜再砲撃ヲ實施セシ
トスル報アリ一刻ヲ猶豫スルカウサルヲ以テ午後
五時茲ニ砲ヲ發シ國旗ヲ撤シテ一同往來
出港ス途中馬車三台及揚子國旗ニナル自動
車ニ台ニ分乗シ揚子提供セル衛隊護衛ノ下ニ
無テ下関ニ到着直ニ驅逐艦格、桃、浜風ニ

收容ノ時ニ午後六時四十分ナリ江岸揚陸中

陸戦隊ノ同時ニ撤退ス、

(注) 1、美米再砲撃ハ先ツ中止セラルタリ三月

二十日下関日美米海軍ハ米司令官「ホコ」少

將主筆ノ下ニ「南軍最高指揮官米艦」

上本事件ヲ目認シ謝罪ス「キ」ヲ求メ若シ底セ

サレハ城内外要地矣ヲ砲撃ス「キ」ヲ決定シ

各国最高指揮官ニ請列スル所アリシ力ニ十七日

各国海軍先任指揮官ハ協議ノ末「今」如

強硬手段ハ執ラサルコトニ決定セリ

2. 避難民百三十名（大人男三六、女三七、小供男三〇、女二七）八軍艦天龍ニ便乗三月辛巳日午前一時半下関港同日午後五時上海着領了鎧負及陸軍駐在武官計六名、驅逐艦櫓ニ残留ス。

五、今次ノ掠奪暴行ハ南軍ノ計畫ニ依ルモノト認ム、

(1) 南軍タル蹤跡、

(1) 領了ノ病室ニ遺棄カルモノ帽子中ニハ姓名ヲ記シ又別ニ他ノ兵ノ名刺一枚、枕一枚、孫文ノ写真及遺訓ト印刷セル紙片ヲ挾ミアリ

(四) 掃蕩暴行ノ末期ニ於テ軍中ノ師党代表兼政

治部主任蕭勁東リテ「党軍ノ方針ハ外僑ヲ保

護スルニ在リ然ルニ先般軍隊中ノ不良分子カ斯

ノ如キ行動ニ出テタルハ誠ニ申禪ナシ特ニ日本ニ対

シ斯ノ如キ不祥ヲ惹起シタルハ遺憾ニ堪ヘ

ス暴兵ハ亦二、三軍ノ所屬ナリト述ヘ次ヲ奉

場セシ中六師長兼付モ亦遺憾ノ意ヲ表シ保護

ノ告宗ヲ書シテ悔ミハタリ

(一) 亦四十軍ノ憲兵隊長賀某ハ二十五日正午頃領テ

餽ニ来リ曰ク

今回、先鋒隊は第二軍（長、魯藤平）第六軍長
 程潜）及び第四軍（長、賀耀組）より選抜編成
 したるものなるが第二軍、兵は白紅藍色のトリホニ
 手腕は巻き、第六軍、兵は同トリホニを立、ネク
 タイ結トナシ、第四軍、兵は之ヲ頸ニ巻附ケ、先
 鋒ナルカ日本領下攻撃來ノ兵に何レカ多カリ、之
 ト鎮内シ避難民及使用支那人等一般ノ記憶
 ヲ綜合シタルニ大部は第二、第六軍、兵ニシテ、
 四十軍、兵は極々少敷ナリ、賀の右ニ年帳ニ記入
 して引取レリ。

(1) 二十五日吉田司令、諸内ニ對シテ程潜ハ之ヲ認メテ

十七師長楊希杰ヲ殺シ、殺シ、派シ、實況ヲ視察

セシトタリ、當方ハ軍、及、法、処、長、江、右、軍、總、指、揮、部、機、要

秘書唐ト年ヲ非公式ニ檢ニ派シテ陳謝、意ヲ述

ヘ更ニ楊希杰ハ程ノ代理トシテ同日下関ニ司令及親

事ヲ訪問シ、正式ニ遺憾ノ意ヲ述ヘタリ

(2) 事前計畫サレタル程多シ

ハ、掠奪物運搬ノ爲メ馬車、自動車、人力車等ヲ用

意シ来リタルヲ

(12) 外國人家屋ハ細大洩サス程ク掠奪ヲ蒙リ掠奪

参考

各國被害情況

(1) 日本

(4) 日清「ハルク」

後藤一機兵即死、「ハルク」命中強約八十、大部

名ノ荷物及邦人ノ財産掠奪セラル

(12) 領事館

負傷者二名(根本陸軍少佐、木村警察署長)

館内徹底的に掃蕩せうん邦人の所持品は勿論

衣類迄剥奪せうん

(2) 英國

(1) 領了館

死者二、傷者三（總領了重傷）

館内全う掃蕩、總領了外に名の三十一人

有り監禁せうん

(2) 美孚社宅附近

集合中、英米人掃蕩或ハ銃撃ニ遭ヒ米兵

負傷ス此処、避難民ハ英米軍艦一砲撃スヨリ

收容セラレタリ

(11) 其他ノ会社私有家屋

怡和洋行ハ絶へス射撃ヲ受ケ傷者一名、完

全ニ掠奪セラレ

太沽「ハルク」ニテハ守備ノ水兵絶向ケテ銃撃ヲ

受ケテ遂ニ撤退、次「ハルク」内一物ヲ残サス掠

奪セラレ

市内私有家屋全部掠奪、城内ニテ捕ハラレタル

英人ハ掠奪侮辱ヲ逞コセラル

(12) 英艦「エメラルド」

水兵一名銃彈二當り即死、彈痕約七十、

(3) 米國

(1) 領事館及各私宅米人經營學校、会社、事務所等悉ク掠奪せられ放火せられタル米人所有建物ハ約一〇棟ニ及ヘリ

(2) 美孚社宅附近ニ圍レテリ (2) 頃 (4) 通り、

(1) 死者一 (金陵大学教授^頭) 負傷者二 (一名の水兵)

備考、金陵大學ニ集合セシ米人一約百五十名ハ三月二

十五日夕刻赤十字及紅十字會、援助ニヨリ

無事引揚ゲダリ

(4) 其他

佛人、殺害セラレタル者 —

伊人、殺害セラレタル者 —

總て、外國人の掠奪迫害ヲ受ケタリ、